

## 資料1 みどりについての市民意向

### 1-1 調査概要

#### (1)目的

和泉市民のみどりに対するイメージや考え方、公園や農地に関する感想などを把握し、和泉市みどりの基本計画を検討するための基礎資料とします。

#### (2)調査対象

和泉市在住の18歳以上の方から無作為に3,000人を選定しました。

#### (3)調査期間

令和元年7月4日(木)～7月17日(水)(2週間)

#### (4)調査方法

調査対象者にアンケート調査依頼文、調査票、返信用封筒を発送しました。その後、調査期間中に記入したアンケート調査票を返送して頂きました。

#### (5)調査項目

以下の項目に従って調査を行いました。

表 調査項目

項目	設問
属性	性別、年齢、職業、居住年数、居住地域
市全体の緑について	みどりの量、みどりの満足度、みどりの増減
居住地域の緑について	みどりの量、みどりの満足度、みどりの増減
緑との関わり	公園利用、利用したい施設、公園の数、必要な公園、公園削減の理由、実施していること、今後実施したいこと、市の支援
市内の農地について	農地との関わり、農地に必要なもの
今後の取組みについて	残すべきみどり、重点施策

#### (6)回収率

回収率は、約36%です。

表 回収率

	回収数	配布数	回収率
サンプル数	1,068票	3,000票	36%

## 1-2 回答者の属性

### (1)性別

回答者の約4割が「男性」、約6割が「女性」となっています。

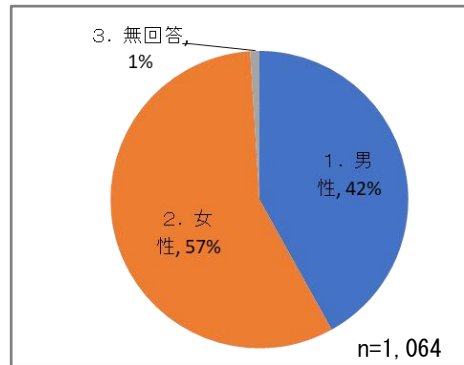


図 回答者の性別

### (2)年齢

回答者の約3割が「70歳代以上」と回答しています。  
30歳代以下の若年層は2割以下となっています。

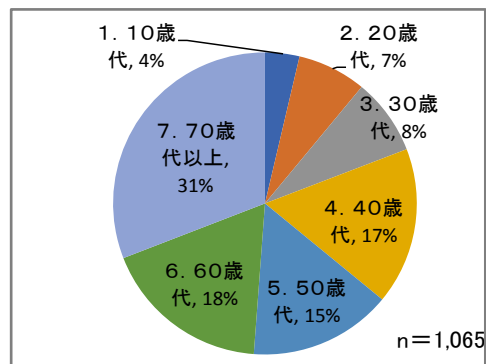


図 回答者の年齢

### (3) 居住年数

回答者の約3割が「30～49年」と回答しており、次いで「20～29年」となっています。

10年未満は約1割となっています。

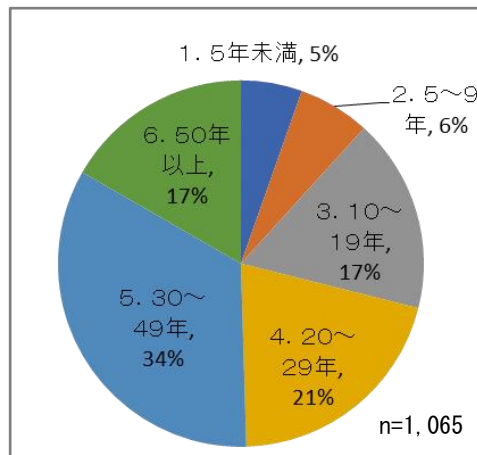


図 回答者の居住年数

### (4) 居住地

回答者の約半数が「中部地域」と回答しており、「北部地域」「北西部地域」が2割ずつとなっています。

「南部地域」は1割以下となっています。

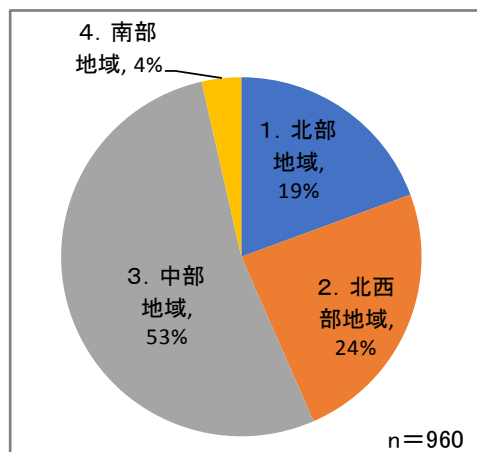


図 回答者の居住地

## 1-3 みどりの評価

### (1) みどりの量

市全体のみどりの量は、約4割が「普通」だと回答していますが、「多い」「やや多い」を合わせた約3割は、「少ない」「やや少ない」の約2割を上回っています。年齢別にみてもほぼ同じ傾向にあります。

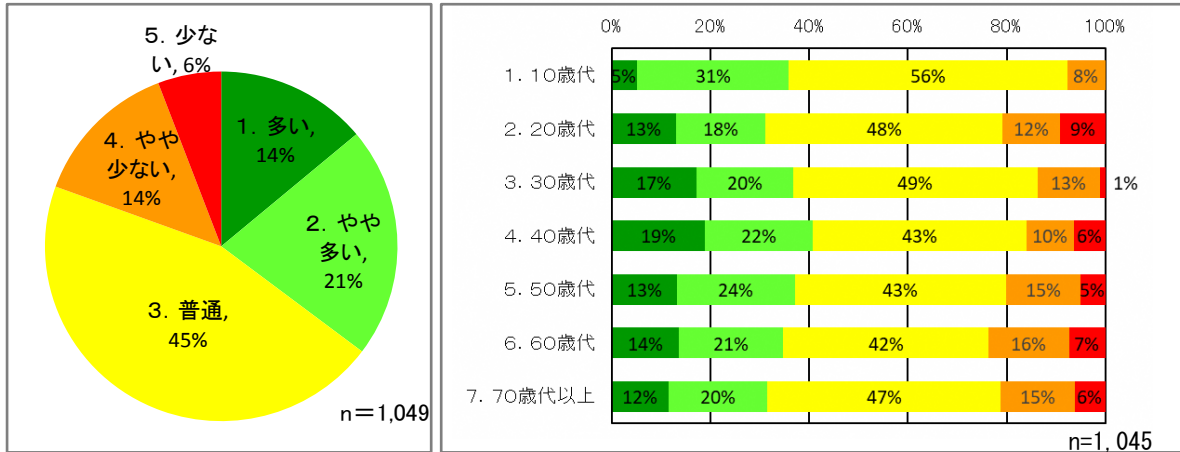


図 市全体のみどりの量

図 みどりの量（年齢別）

住まいのみどりの量は、北部地域や北西部地域では「少ない」「やや少ない」が「多い」「やや多い」を逆に上回っています。

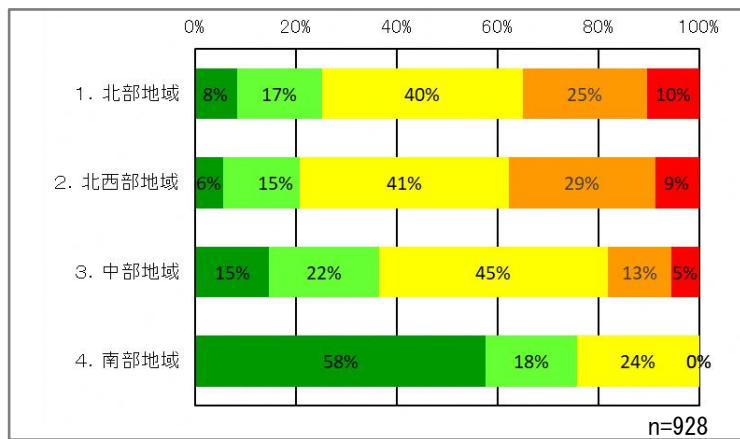


図 住まいのみどりの量

## (2)みどりの満足度

市全体のみどりの満足度は、約4割が「普通」だと回答していますが、「満足」「まあまあ満足」を合わせた約4割は、「満足していない」「あまり満足していない」の合計約2割を上回っています。

年齢別にみてもほぼ同じ傾向にあります。

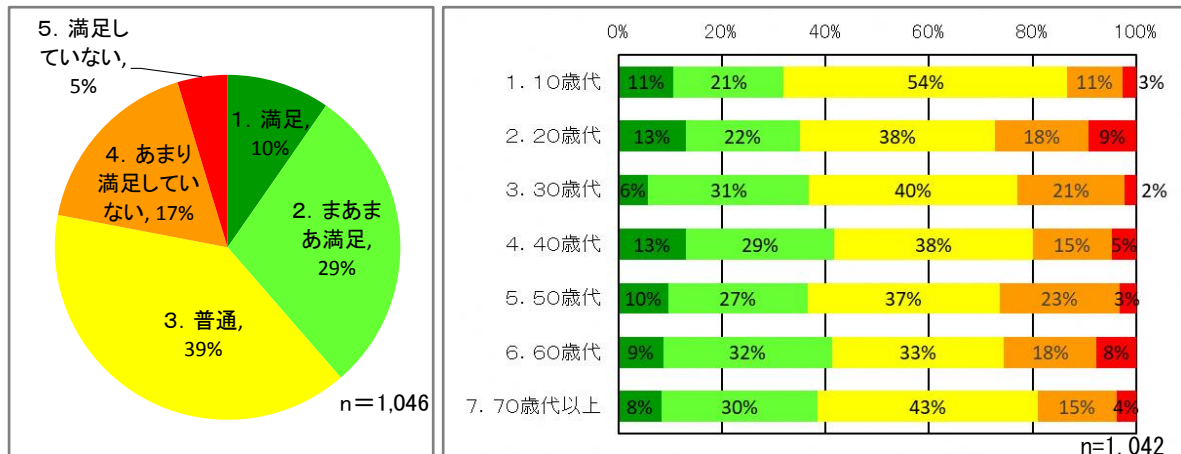


図 市全体のみどりの満足度

図 みどりの満足度 (年齢別)

住まいのみどりの満足度は、北西部地域では「満足していない」「あまり満足していない」が「満足」「まあまあ満足」を逆に上回り、北部地域では等しくなっています。

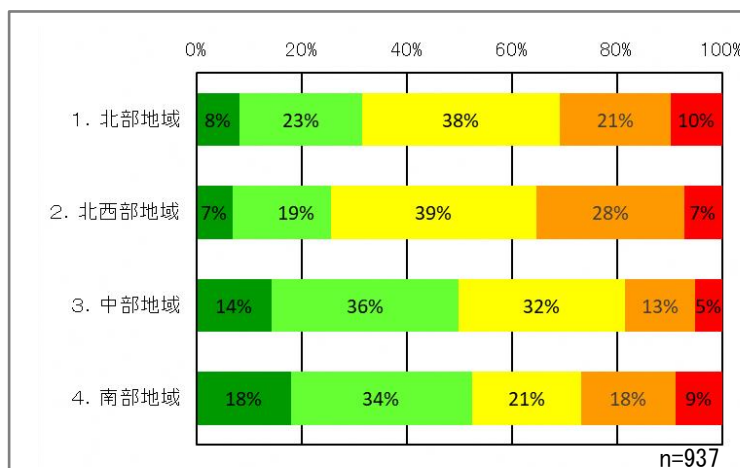


図 住まいのみどりの満足度

### (3)みどりの増減

約10年前と比較した市全体のみどりの増減は、約3割が「あまり変化がない」と回答していますが、「減った」「やや減った」を合わせた約4割は、「増えた」「やや増えた」の合計約2割を上回っています。

年齢別にみてもほぼ同じ傾向にあります。高齢者ほど、みどりが「増えた」「やや増えた」と回答する割合が高くなっています。

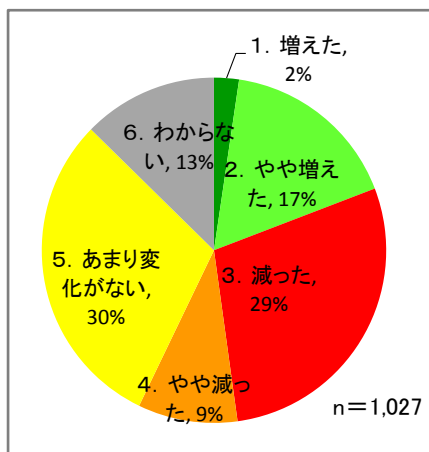


図 市全体のみどりの増減

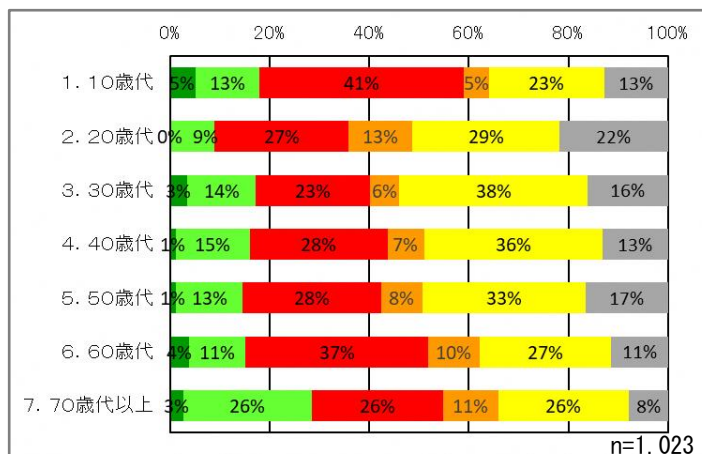


図 みどりの増減（年齢別）

住まいのみどりの増減は、南部地域では「あまり変化がない」が大半ですが、北部、北西部、中部地域は、「減った」「やや減った」と評価している方が、「増えた」「やや増えた」と評価している方を上回っています。

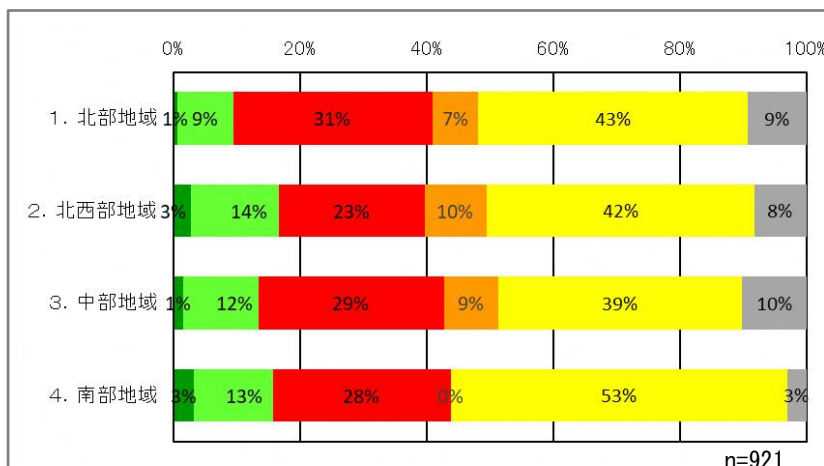


図 住まいのみどりの増減

#### (4)住まいの地域で増えた、減ったみどり

市全体で「増えた」「やや増えた」と評価している割合が高いみどりは、「小さな公園・空地の緑」「街路樹など道路の緑」「大きな公園の緑」の順になっています。

市全体で「減った」「やや減った」と評価している割合が高いみどりは、「田畑の緑」「小さな公園・空地の緑」「生け垣・庭木・ベランダなど宅地の緑」「街路樹など道路の緑」の順になっています。

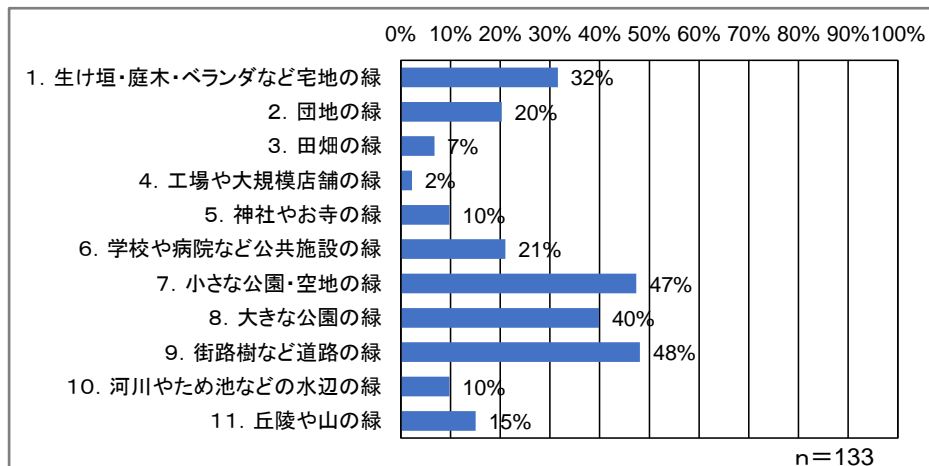


図 増えたみどり

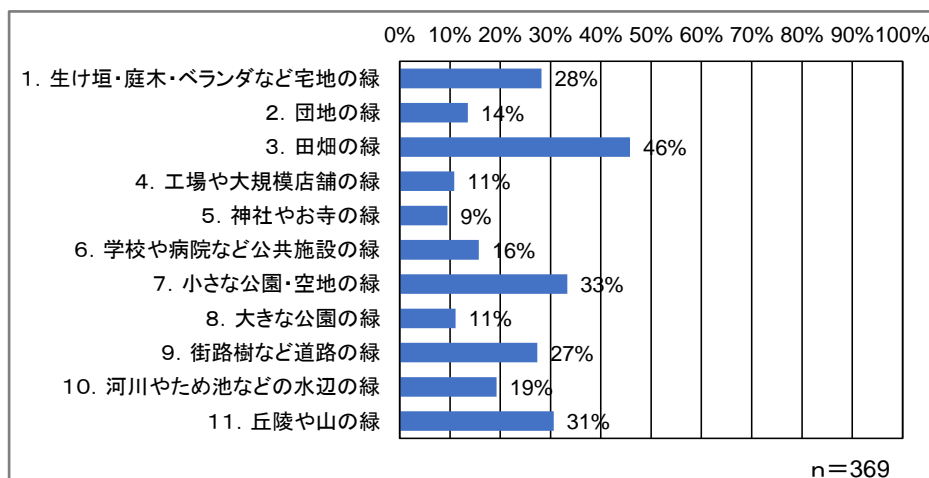


図 減ったみどり

## 1-4 公園との関わり

### (1)公園の利用

市全体では約 5 割が「ほとんど利用しない」と回答しており、「たまに利用する」は約 4 割、「よく利用する」は約 1 割にとどまっています。

地域別にみてもほぼ同じ傾向ですが、南部地域で「よく利用する」の回答はありません。

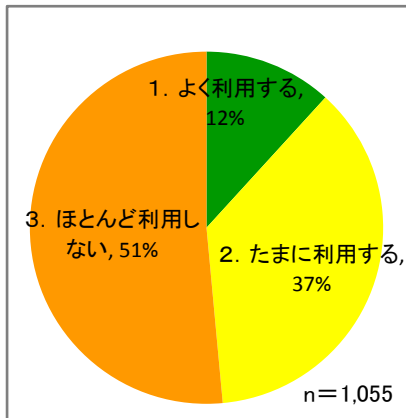


図 公園の利用状況（市全体）

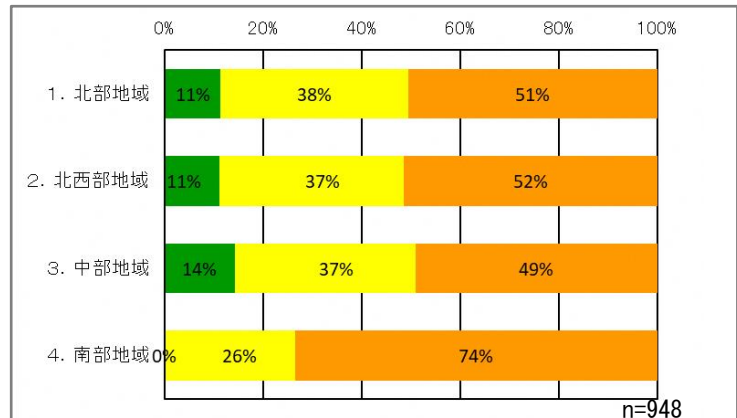


図 公園の利用状況（地域別）

年齢別にみると、30 歳代や 40 歳代では「よく利用する」「たまに利用する」の合計が約 6~7 割を占めており、逆に 10 歳代は約 7 割以上が「ほとんど利用しない」と回答しています。

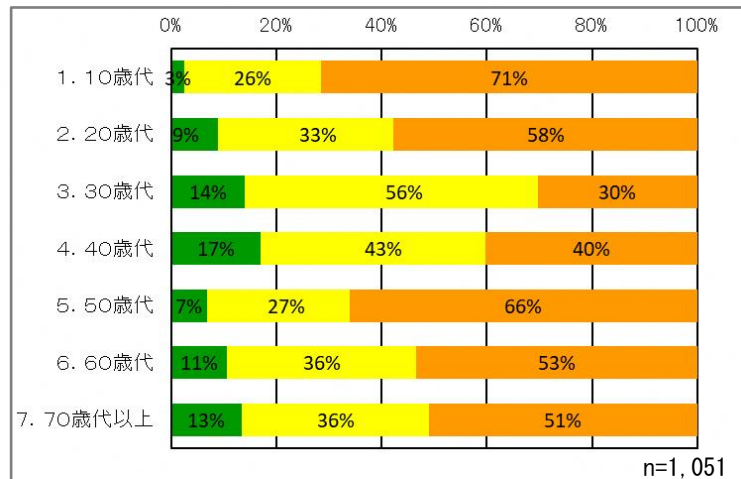


図 公園の利用状況（年齢別）



## (2) 今後利用したい施設や必要と思われる施設

市全体では「カフェなどの飲食が可能な休憩施設」が突出して支持されており、「大型複合遊具」等の他施設とは大きな差があります。

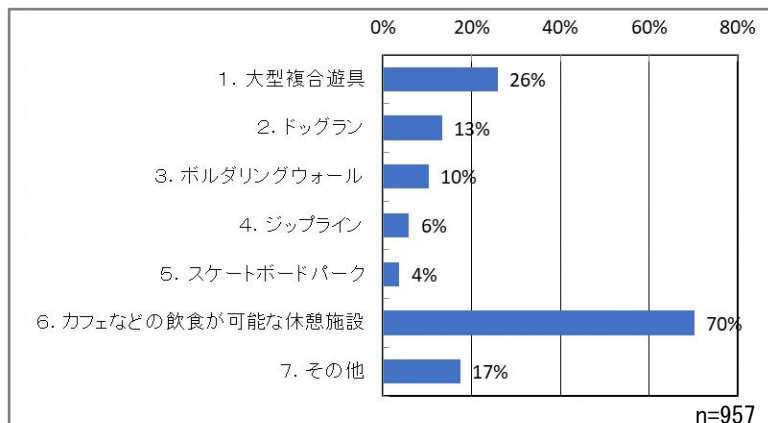


図 今後利用したい施設や必要と思われる施設（市全体）

年齢別にみると、30歳代では「大型複合遊具」の割合も高くなっています。

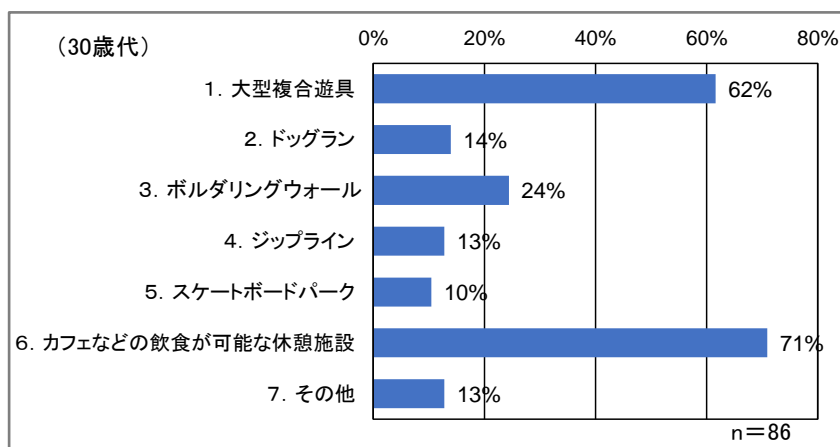


図 今後利用したい施設や必要と思われる施設（30歳代）

### (3)公園の数について

市全体では約6割が「今のままで良い」と回答し、「もっと公園が必要」は約4割、「もっと少なくても良い」は少数となっています。

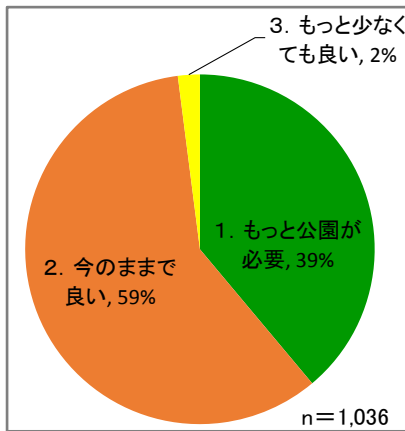


図 公園の数（市全体）

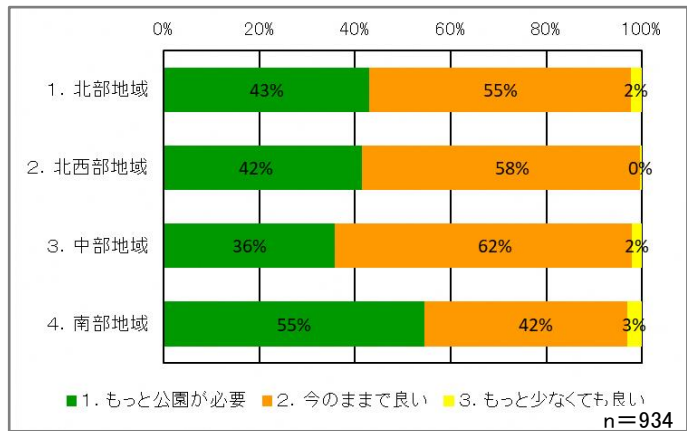


図 公園の数（地域別）

年齢別にみてもほぼ同じ傾向ですが、30歳代では「もっと公園が必要」が約6割で最も多くなっています。特に北部地域や北西部地域では7割を超えています。

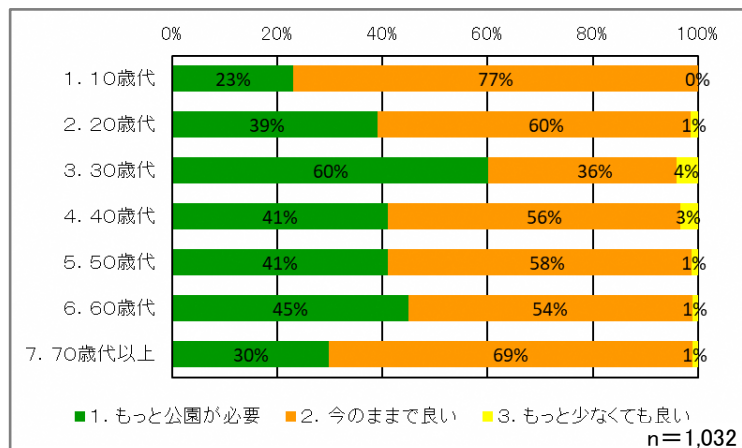


図 公園の数（年齢別）

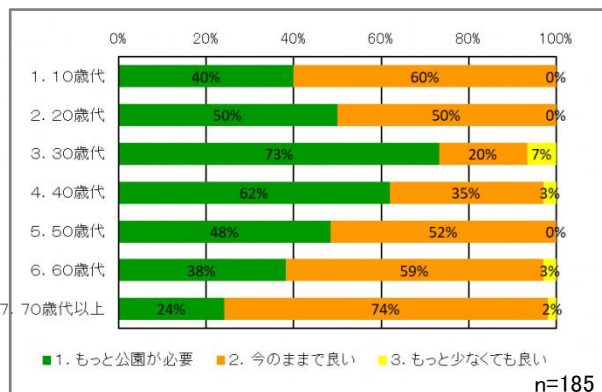


図 市民アンケート調査結果  
（公園の数 年齢別 北部地域）

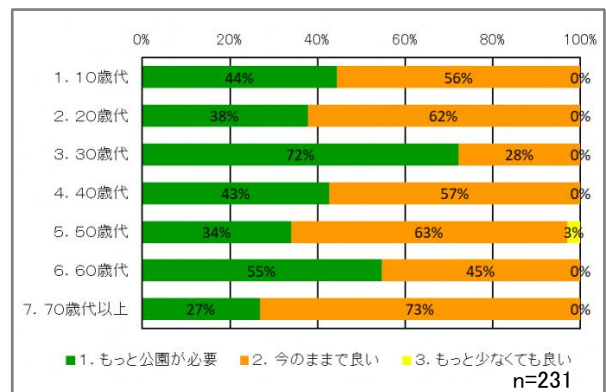


図 市民アンケート調査結果  
（公園の数 年齢別 北西部地域）

#### (4)必要な公園の性格について

「もっと公園が必要」と回答された方が求めている公園の性格について、市全体では「徒歩で行くことが可能な身近な公園」「徒歩や自転車で行くことが可能な遊具や広場がある公園」「休日に自転車や車で行く大型遊具や球技ができる規模の公園」の順になっています。

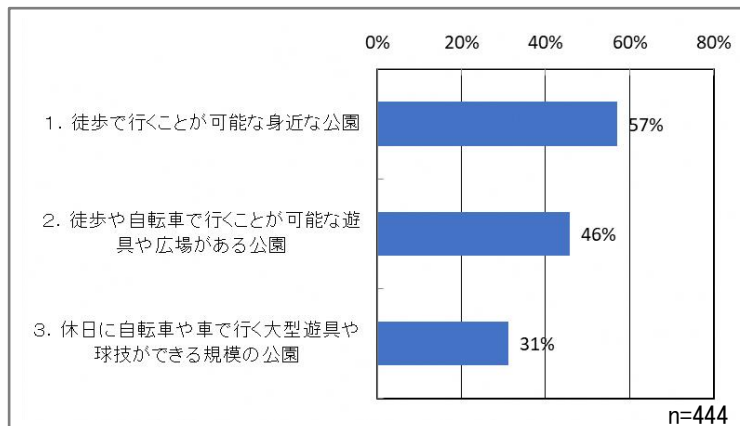


図 必要な公園の性格について（市全体）

## 1-5 みどりとの関わり

### (1) 現在実施していること

市全体では約 4 割が「自分の家の緑を外からも見えるようにする」と回答しており、次いで「住まいのまわりの緑を管理する」が約 3 割となっています。

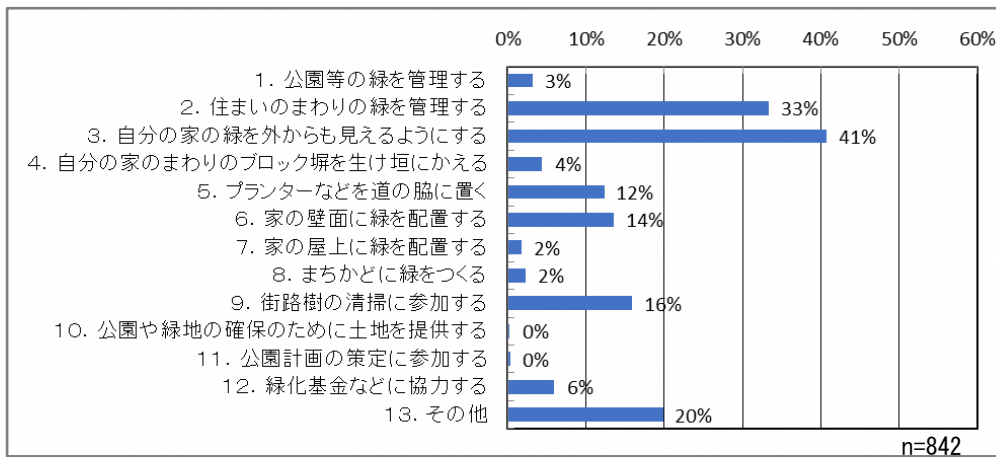


図 現在実施していること（市全体）

### (2) 今後実施してみたいこと

全体としては、「住まいのまわりの緑を管理する」や「自分の家の緑を外からも見えるようにする」といった活動が上位を占めていますが、「街路樹の清掃に参加する」「プランターなどを道の脇に置く」「まちかどに緑をつくる」も一定数がある傾向にあります。

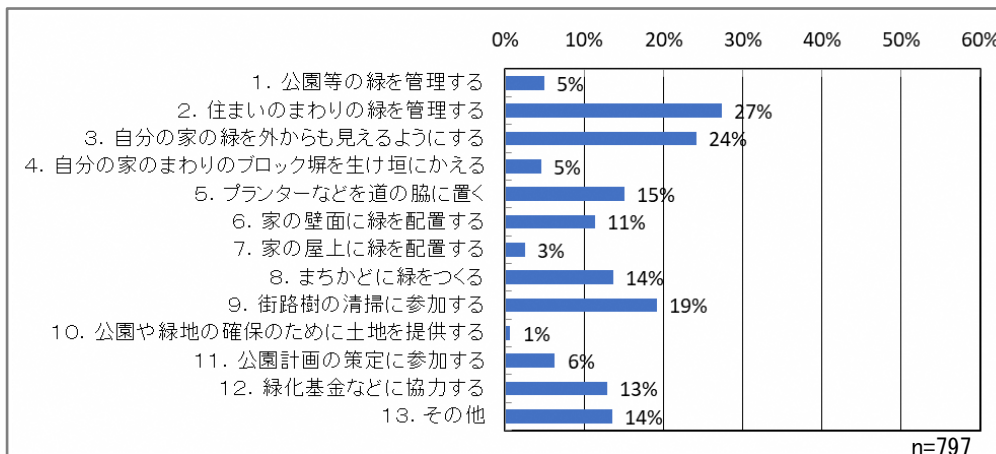


図 今後実施してみたいこと（市全体）

年齢別にみると、10 歳代では「まちかどに緑をつくる」、20 歳代では「緑化基金などに協力する」、30 歳代では「プランターなどを道の脇に置く」が最も多くなっています。

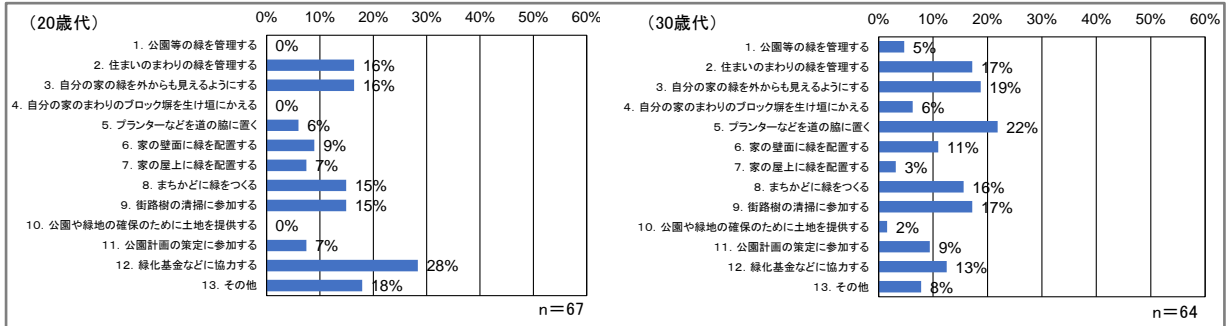


図 今後実施してみたいこと (20 歳代、30 歳代)

## 1-6 農地との関わり

### (1) 農地との関わり

市全体では約 5 割が「興味がない」と回答しており、次いで「市民農園などで家庭菜園をしたい」が約 2 割となっています。

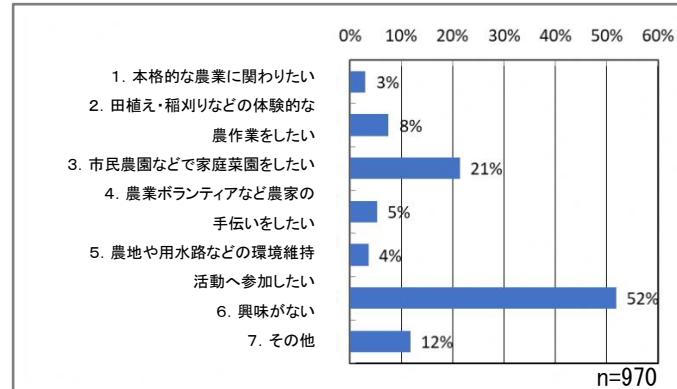


図 農地との関わり（市全体）

年齢別にみると、30 歳代で「体験的な農作業をしたい」、20 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳代以上で「市民農園などで家庭菜園をしたい」という方が、2 割以上います。

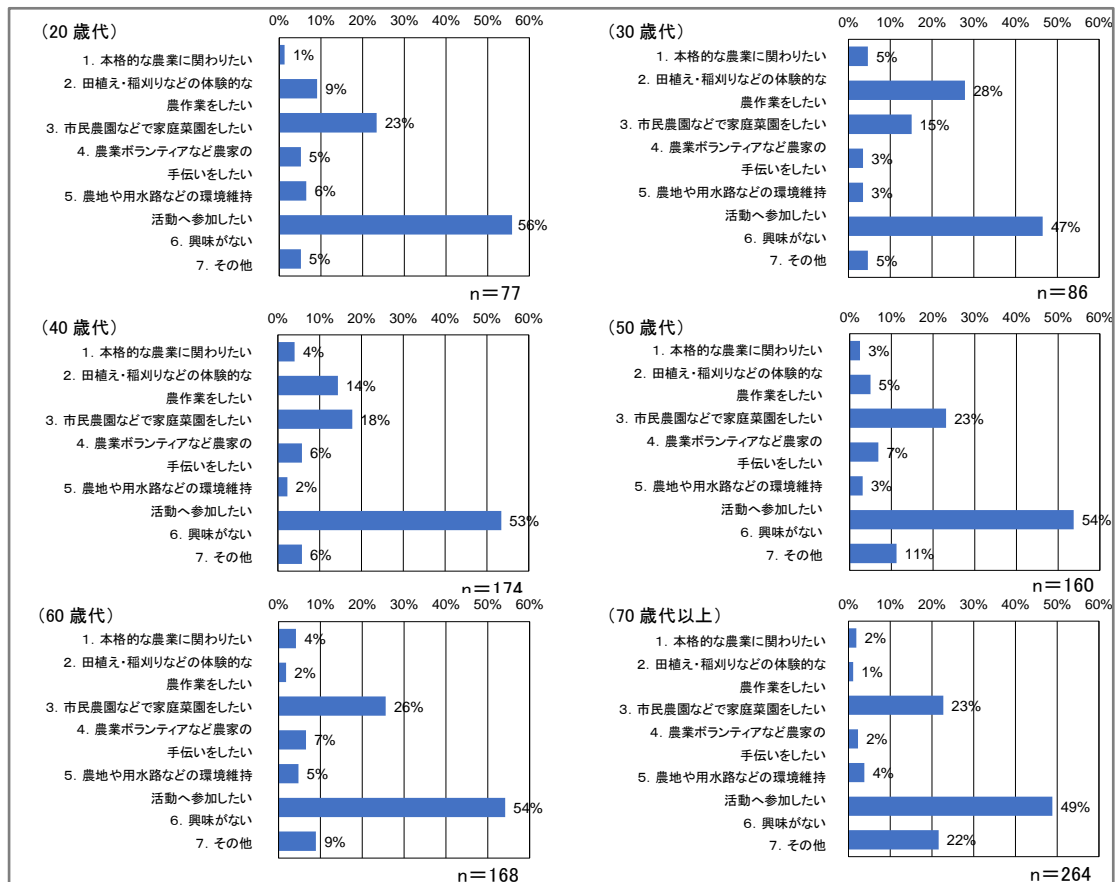


図 農地との関わり（年齢別）

## (2) 農地との関わりで必要なこと

市全体では「体験農園や観光農園」や「市民農園」が上位を占めています。

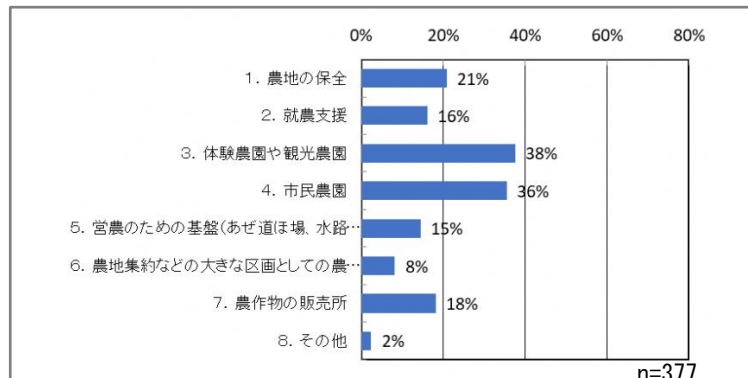


図 農地との関わりで必要なこと（市全体）

年齢別にみると、20歳代、30歳代は「体験農園や観光農園」、50歳代では「市民農園」の割合が特に高くなっています（5割以上）。

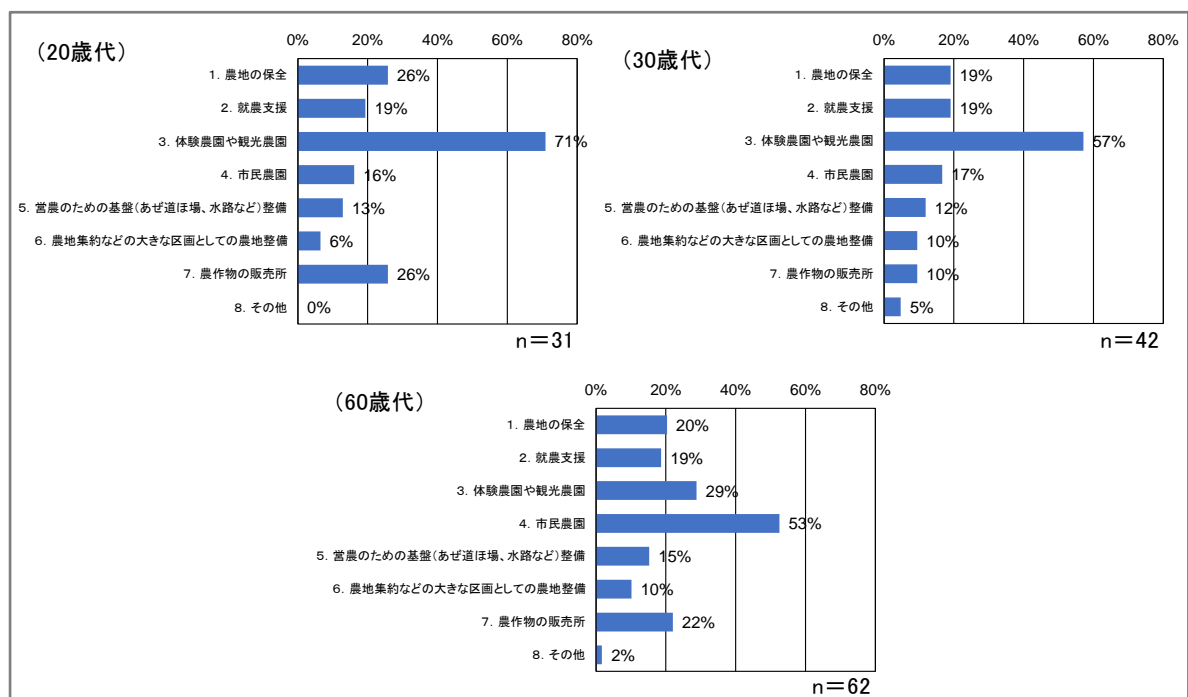


図 農地との関わりで必要なこと（20歳代、30歳代、50歳代）

## 1-7 今後の取り組み

### (1) 今後残していきたいみどり

市全体では約 4 割が「まちから望み見ることのできる山の緑」や「家の周辺に分布する身近な緑」と回答しています。

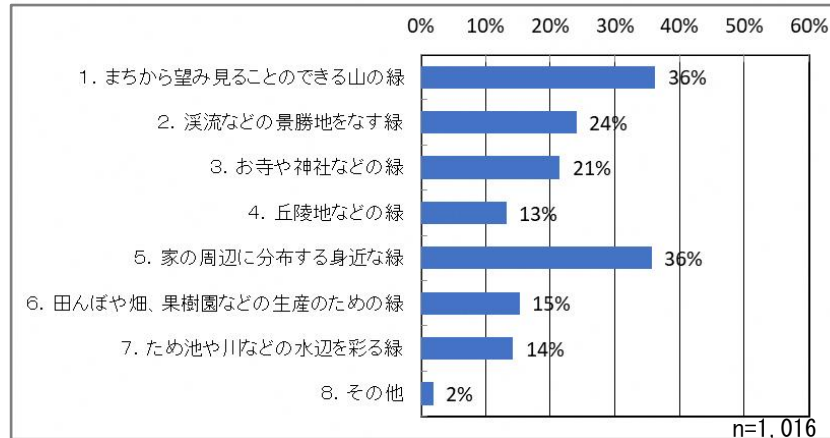


図 今後残していきたいみどり（市全体）

### (2) 必要な施策

市全体では約 5 割が「緑の街並みづくり」や「公園・緑地・遺跡・寺社・農地などを活用した、ふれあい拠点の整備」、次いで約 4 割が「身近な緑の保全・育成や、快適で安全な緑地空間の確保」や「山岳部や丘陵部における、緑の保全・育成」となっています。

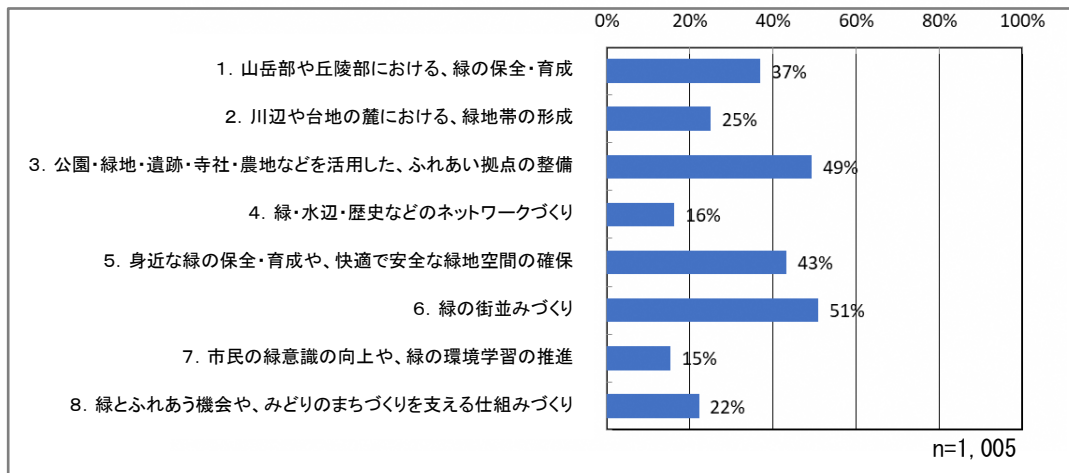


図 必要な施策（市全体）



地域別にみると、北部地域では「公園・緑地・遺跡・寺社・農地などを活用した、ふれあい拠点の整備」、北西部地域や中部地域では「緑の街並みづくり」が最も多くなっているのが特徴です。

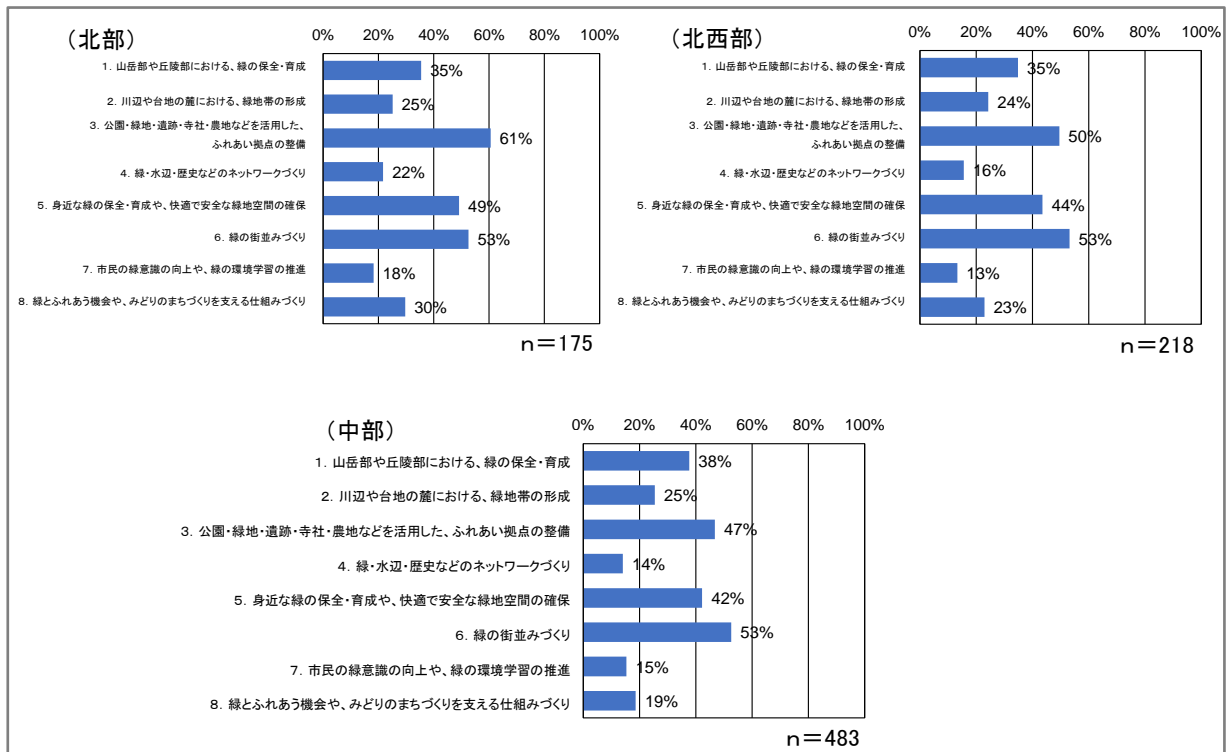


図 必要な施策（地域別）

## 1-8 自由意見

自由意見として以下のような意見をいただきました。

### (1) 全体的な意見

- ・ 市内に緑が増えるのはいいが、管理できないとかえって環境（防犯、交通安全、害虫発生、景観など）阻害要因になる
- ・ 地域の緑が荒れてきている背景には地域住民の高齢化等があり、総合的な視点でコミュニティを保存しないと緑のまちづくりはできない。住民の緑に対する意識やマナーに問題がある

### (2) その他意見

#### 1) 民活に関する自由意見

- ・ 緑のテーマパークで人的交流を活発化
- ・ 人の集まる駅前やスーパーと絡めて緑のまちづくりの推進
- ・ ドッグランなど愛犬家さん達、愛猫家さん達、動物が大好きな方々の触れ合える場所
- ・ 天王寺のてんしばのように企業などを巻き込んでカフェがあったり、ピクニックができたりなどきれいですごしやすい公園
- ・ 企業の敷地内に緑を義務化する公園

#### 2) 市民や事業者との連携に関する自由意見

- ・ 地域ボランティアは年配の方々が必死でやっているイメージで、参加しづらい
- ・ 少子高齢化が進む中で、ゴミのボランティアにしても子供を交えて楽しく参加出来るようなイベントを企画
- ・ ボランティア団体の協力を求め援助
- ・ シルバー人材の有効活用による緑の維持
- ・ 市民参加による除草作業
- ・ 簡単に樹木手入れボランティアに参加できる仕組みづくり
- ・ 地域（町会等）と連携し、地域が求めているものを1つのモデルとして型にし、活動を拡大
- ・ 市民活動の助成
- ・ 私邸の樹木管理の規格化
- ・ 和泉リサイクル公園のような季節の花がある公園で観光名所の一つにする

### 3) 都市公園の見直しに関する自由意見

- 黒鳥山公園が、あんなに広い公園なのに物足りない
- 黒鳥山公園あたりの整備（カフェ、バーベキュースポット）
- 北部には大きな公園がないので、今後信太山周辺の公園化ができるとうい
- 公園が少ないと子育てしにくい
- 遊具・カフェの設置
- 禁止ばかりではなく、スケートボードのできる場所の提供
- 緑の中で音楽を楽しめる公園
- 新しい取り組みより既存の公園の利用促進
- 古くなった公園の再整備

### 4) 緑の活用に関する自由意見

- 池上曾根遺跡公園周辺の緑を整備
- 市営農園の設置
- 野鳥が住みつく緑化
- 手入れされた街路樹は市の好感度につながる

### 5) その他

- 残っている緑の管理・保護が重要
- 苗木配布の継続

アンケート調査結果をまとめ、今後の課題を整理すると以下の通りです。

### (1)みどりの評価

本市のみどりに対する評価は量や質（満足度）とも、大部分が「普通」と回答されています。量については「多い」「やや多い」と回答した方が、「少ない」「やや少ない」と回答した方を上回り、また質（満足度）については「満足」「まあまあ満足」と回答した方が、「満足していない」「あまり満足していない」と回答した方を上回っていることから、本市のみどりについて一定の評価が得られていることが伺えます。

そのため、今後もこれまで継続してきた取り組みを進め、みどりの量や質をさらに充実していくことが必要です。

### (2)公園との関わり

本市の公園の利用状況は、「ほとんど利用しない」という回答が約5割を占めています。公園の数については「今のままで良い」という回答が約6割を占めています。そのため、今後は、公園の量とともに、公園の質を高め、公園の利用促進を図っていくことが重要です。

また、今後利用したい施設としては、全体として「カフェなどの飲食が可能な休憩施設」が、30歳代では「大型複合遊具」が求められています。また、全体では「徒歩で行くことが可能な身近な公園」が求められています。今後はこのような市民のニーズに合わせた施設整備を行うことで利用の促進を図っていくことが必要です。

### (3)みどりとの関わり

みどりに関連して、現在、市民が実施していることは、「自分の家の緑を外からも見えるようにする」や「住まいのまわりの緑を管理する」が多くなっています。また今後実施してみたいことは、「住まいのまわりの緑を管理する」や「自分の家の緑を外からも見えるようにする」といった活動が上位を占めています。「街路樹の清掃に参加する」「プランターなどを道の脇に置く」「まちかどに緑をつくる」も一定数がある傾向にあります。

市民のみどりづくりの取り組みは、家の周り等の身近な取り組みが参画しやすいと考えていることから、このような取り組みを支援するような施策が必要です。

#### **(4)農地との関わり**

農地との関わりについては、約 5 割が「興味がない」と答えており、市民の農業への関心の少なさが伺えます。

農地との関わりの中で、「体験農園や観光農園」、「市民農園」が今後重要という意識も伺えることから、このような活動を支援することで、農業や農地の重要性への関心を高め、今後の保全・活用方策を展開することが必要です。

#### **(5)今後の取り組み**

今後残していきたいみどりは、「まちから望み見ることのできる山の緑」や「家の周辺に分布する身近な緑」の回答が多く、また必要な施策は「緑の街並みづくり」や「公園・緑地・遺跡・寺社・農地などを活用した、ふれあい拠点の整備」、「身近な緑の保全・育成や、快適で安全な緑地空間の確保」や「山岳部や丘陵部における、緑の保全・育成」の回答が多くなっています。

そのため和泉山脈や信太山丘陵等の、まとまりのあるみどりの保全を図るとともに、地域のみどり、身近なみどりを保全し、新たに創出することが重要です。